

岡谷市議会 12月定例会一般質問要旨について（教育総務課分）

○吉田 浩 議員

2 小中学生への新型コロナウイルス感染症の影響について

- (1) 学校生活への影響
- (2) 下校後や休校時の子どもへの影響

○中島 保明 議員

2 みどりの少年団について

- (3) 全小中学校への拡大についての意欲

○武井 友則 議員

2 公共施設について

- (3) 学校

○大塚 秀樹 議員

2 コロナ禍による小中学生の心のケアについて

- (1) 不登校の状況
- (2) 学校行事の中止

主 務	主 幹	統括主幹	副参事	課 長	部 長	教育長
						

○吉田 浩議員

2 小中学生への新型コロナウイルス感染症の影響について

(1) 学校生活への影響

新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年度は休校、分散登校や短時間登校を余儀なくされ、子供たちもさることながら、教育現場の皆様も大変御苦勞をされたかと思ひます。その新型コロナウイルス感染症に関しましては、ワクチン接種の促進に加え、徹底した感染防止対策や新しい生活様式の積極的な取り入れもあり、現在はある程度落ち着いてはおりますが、いまだ収束のめどは立っておりません。子供たちの学校生活にも様々な変化や、コロナ前には考えられなかった現状があるかと思ひます。

そこで、小中学校における新型コロナウイルス感染症対策と新型コロナウイルス感染症影響下の子供たちの令和3年度の学校生活の現況について、マスクの着脱、換気、手洗い、授業中に具合が悪くなった子供への対応などをお伺ひいたします。

○教育長答弁

学校生活における新型コロナウイルス感染症への対応につきましては、国のマニュアルや県のガイドライン等に基づき、基本的な感染症対策を徹底しております。

このうち、マスクの着用につきましては、授業などで身体的距離が取れないときは着用することを基本としておりますが、十分な距離が確保できる場合や、体育の授業時、熱中症のおそれがある高温時などは着用しておりません。

教室内の換気につきましては、密閉を防ぐために、可能な限り常時換気を行っており、寒さの厳しい冬期間も小まめに換気を行うこととしております。

手洗いにつきましては、給食やトイレの使用時など、活動の切替え時に行うことを徹底しております。

また、校内で具合が悪くなった児童・生徒がいた場合は、保健室で様子を見るとともに、発熱等の症状があれば、家庭に連絡して、医療機関を受診していただいております。

このところ感染状況について、落ち着きが見られることから、校内での児童・生徒の活動につきましては、基本的な感染症対策を徹底しつつ、安全性に配慮しながら、可能なものは通常の活動内容で実施しているところであります。

○吉田 浩議員 2回目以降

学校における新型コロナウイルス感染対策と影響下の子供たちの現況について、分かりました。特に、マスクの着脱、換気、手洗い、授業中の具合が悪くなった子供へ非常に丁寧に対応されているということで理解いたしました。

1点、確認ですが、給食時はもちろんマスクをし、食べる時は黙食ということで間違いなく思ひますが、マスクを忘れてしまった場合や、私もたまにあります、使用中にヒモが切れて使えなくなった場合はどのように対応されているのでしょうか。

## ○教育部長答弁

児童・生徒さんが着用するマスクについては、基本的には各家庭で御用意していただくということになっております。ただ、忘れてしまった場合や汚れてしまった場合、先ほどの破損してしまった場合など、学校活動の中で起こりえることだと思えます。そういう場合には、学校でマスクを備蓄しておりますので、保健室等に行ってください、忘れてしまったと言っただけならば、きちんとお渡しできるだけの十分な量は用意しており、そのように対応しております。

## ○吉田 浩議員質問

分かりました。

あと、もう1点お伺いします。換気も小まめにされているということで、これから寒い時期であっても換気はしていくということだと思えます。その場合、授業中でも子供たちは上着を着たり、防寒対策ができるものなのか、お聞かせいただければと思えます。

## ○教育部長答弁

寒い時期は、インフルエンザの心配も出てまいります。インフルエンザ、それからコロナ、両方に対応できるように、換気はやっぱり小まめにする必要があると思っておりますが、そうはいっても、子供たちが学習するのに寒くて震えてやっているようでは困ります。そんなときには臨機応変に先生方が上着を着るとか、あるいは一旦窓を閉めて、少し温かくなったらまた窓を開けるなどの柔軟な対応をしていただいていると思えます。

## ○吉田 浩議員質問

ありがとうございました。国のマニュアルや県のガイドラインもあるかと思われませんが、そうでなく、現場目線で柔軟な対応をしていただいているということで理解しました。ありがとうございます。

次に、学校生活についてお聞きしたいのですが、学校行事で運動会や音楽会など、今年度についても影響があったと思えますが、コロナの影響で中止や延期、時短開催などありましたら、その辺を教えてください。

また、それらについて、児童・生徒や保護者からはどのような声が上がっているのか、併せてお伺いいたします。

## ○教育部長答弁

コロナ禍での学校行事につきましては、大人数を避けまして、安全に配慮した上で、可能な限り実施する考えでございます。各校で、時間短縮やプログラムの調整、あるいは保護者の入替えや別室でのリモート参観など、各校、工夫して実施しているところでございます。

このうち、運動会につきましては、日程を短縮して、例年に比べ種目は少なくなりましたが、一つの種目に対する児童の思い入れが深まったことで、保護者からは満足したとの御意見や、半日の開催により参観しやすくなったとの御意見を伺っているところでございます。

また、音楽会では、保護者の参観を学年単位で入れ替えたり、前日までのリハーサル時に参観できるようにするなどの対応をした学校がございました。保護者からは入場を待つときの混乱がなくなってよかったという御意見や、今までよりも子供が頑張っている姿をじっくりと見ることができ、来年以降もぜひ続けてほしい、リモートで参観させていただき、大変ありがたかったといった肯定的な御意見を伺っているところでございます。

### ○吉田 浩議員質問

運動会はよく分かりましたが、音楽会に関して、疑問に思うのは、やはり声を出して歌ったり、管楽器、呼吸楽器というのでしょうか、リコーダーなどの楽器の演奏については、具体的にどのような対策をされているのか、もしわかればお聞かせください。

### ○教育部長答弁

各学校でそれぞれ対応していただいておりますが、合唱については、マスクをしたまま歌っていたようでございます。楽器の演奏については、さすがにマスクをしたままというわけにはいかないと思いますので、そういったところは感染対策を取りながら、各学校で気をつけてやっていただいております。

### ○吉田 浩議員質問

本来なら、合唱などは子供の笑顔を見ながら鑑賞するのが魅力の一つだと思います。今は致し方ないと思いますが、いずれそういった対策が解消されていけば良いと思っております。

近所の子供がたまたま歩いていたので、雑談をする機会がありました。音楽会の様子を聞いてみたら、こんな声がありましたので、ここでご報告します。

音楽会は、本番も練習も含めて、全校で集まれないということで、リモートのみなので、以前と比べてやっぱり寂しいということ、リモートの機会が増えたことはいいとして、まだ、声や音がとても聞きづらいということでした。小学校3年生の女の子と話した内容になりますので、参考までにお話させていただきました。

学校活動が縮小傾向にあったり、少し形を変えている中で、子供たちのモチベーションや意欲に関して影響があるかどうか、その辺をどう捉えているか、お聞かせください。

### ○教育部長答弁

子供たちの生活について、いろいろなことができなくなっている、そういう中で大変悲しい想いをされていると思うのですが、そういう中でも、子供たちが元気に今できることをしっかりと頑張って取り組んでいただいている姿がどこの学校でも見られております。子供たちは、しっかりと学校生活を送っていただいているのだと思っております。

### ○吉田 浩議員質問

分かりました。次に、学校が終わった後の一部の子供たちが対象になると思うのですが、部活動や放課後子どもの居場所づくり事業への影響、その辺の影響についてお伺いをいたします。

### ○教育部長答弁

中学校の部活動につきましては、校長会によりまして、県の感染レベルに合わせて活動の制限や休止を申し合わせております。県内が感染拡大によりレベル5となったときには、活動を休止いたしまして、練習や対外試合ができない期間もございました。感染防止を第一に考え、チーム練習ができない間は自主練習するなど、工夫しながら対応してまいりましたが、少なからず影響はあったものと受け止めております。感染状況が落ち着いている今は、普段どおりに活動をしていただいております。

もう1点、放課後子どもの居場所づくりの事業につきましては、子供たちの安全を確保するため、レベル4以上で中止としておりましたが、現在は再開しており、各校で、地元の皆さんに精力的に活動いただいているというところでございます。

### ○吉田 浩議員質問

分かりました。部活動はなかなか練習が出来ず、大会の縮小もあったと思います。個人の活動時間もそうですが、部活動では、例えば県大会、全国大会など、普段活動しているエリアから離れた場所の大会に出場する機会があると思いますが、そういったことに対して、現状で、何かガイドラインや申合せ事項があったら教えていただければと思います。

### ○教育部長答弁

対外試合等で遠方に行くような場合もございますが、そのような場合は教育委員会と校長会で、どうするかを話し合っており、県外に行くようなことがあった場合は、帰ってきた後、可能であれば2日間お休みしていただくなど、コロナの感染状況や、行先の感染状況、そういったものをきちんと把握しながら、判断をしています。子供さんの中でコロナの感染を広げない、子供さんも自分もかからない、それから友達にもうつさないということがとても大切だと思いますので、そのような判断をしていただいております。対応内容によっては、例えば欠席扱いしないなど、教育委員会と校長会で柔軟に対応ができるようにしております。

### ○吉田 浩議員質問

コロナ禍で、校内でのいじめやトラブルについて何か把握しているものがあつたらお伺いいたします。

### ○教育部長答弁

コロナ禍において、家庭で過ごす時間が増えた子供たちの生活の様子も変化してきておりまして、特にゲームやインターネットなどで楽しむ時間が増えているということを感じております。最近の傾向としまして、通信型ゲームで仲間外れにされたり、LINEなどのコミュニケーションアプリの書き込みなど、インターネットを介したやり取りがいじめやトラブルにつながるケースが数件ありますが、確認されております。このため、学校を通じて子供たちや家庭に対して、ネットを介したいじめやトラブルに気をつけていただくように、注意喚起や情報モラル教育の大切さを伝えていただいております。

### ○吉田 浩議員

先日、皆様も御存じのとおり、愛知県弥富市の中学校で痛ましい事故が起きてしまいました。当初、学校側でもトラブルは把握していないということでしたが、聞き取りを続けていく中で、やはりLINE等での出来事が多少なりとも影響があったということでした。そういった見えない部分でのケアというのは非常に難しいところだと思いますが、事が起こってしまってから、また、子供が他人や自分自身を傷つける手段以外に解決の道がないという短絡的な行動を取ることは絶対に防がなければいけないと思っていますので、今後も取組をよろしく願いいたします。

### ○吉田 浩議員質問

新型コロナウイルス感染症対策により、新しい生活様式が学校でも定着し、慣れてきた頃だと思えますが、今後このような学校生活様式がどのようになっていくと捉えているか、展望も含めてお聞かせください。

### ○教育長答弁

現在のところ、感染状況は落ち着いておりますが、第6波の予想もされており、しばらくはコロナとの共存をしていく必要があると思っております。学校生活におきましても、コロナ前に戻るということではなく、コロナと共存をした教育環境をつくり上げていくことが必要ではないかと考えております。

## (2) 下校時や休校時の子どもへの影響

新型コロナウイルス感染症の影響は、学校生活様式の変化だけでなく、子供たちの在宅時の生活にも影響が及んでいると考えられます。

令和3年度で下校時や休校時の子供たちの生活で新型コロナウイルス感染症の影響を受けていると思われる相談にはどのようなものがあるのか、お伺いいたします。

### ○教育長答弁

子供たちの家庭生活の中で、新型コロナウイルス感染症の影響に関する相談につきましては、市教育委員会として、受けているものは特にございませんが、コロナ禍における生活様式の変容は、子供たちの日常生活に何らかの影響を及ぼしていると感じております。家庭での子供たちの様子を各校に確認をしたところ、保護者からは、家庭で過ごす時間が長くなり、ゲームに費やす時間が増えた、ネット上でのつながりが増え、夜遅くまで起きているようになった、部活動ができなくて家でゲームやネットをやる時間が増えているなどの訴えがあり、子供たちの家庭生活での課題が見えてまいりました。

また、以前と比べて子供たちの骨折等のけがが増えており、家で過ごす時間が増えることで、体力や体のバランス感覚が低下し、子供たちが転倒するケースが増えているのではないかと危惧をしているところでございます。

### ○吉田 浩議員 2回目以降

下校後や休校時の子供への影響、相談に関しては分かりました。また、SNSやゲームの相談がいろいろあるということもお伺いいたしましたので、こういった諸問題が理由となって不登校も増えているという数字が全国的にも表れておりますが、現在、岡谷市で、そういった不登校の件数について把握しておりましたらお聞かせください。

### ○教育部長答弁

現在、令和2年度の数字ですが、87件となっております。不登校の理由でございますが、生活のリズムの乱れ、学習に対する不安、先生、友達との関係、また、その理由がはっきり分からない場合もありますが、そういったことに起因していると考えられます。

過日、国・県より、令和2年度の不登校の児童数が過去最多となったという報告もされておりました、文部科学省では、その背景を、生活環境の変化により生活リズムが乱れやすい状況や、学校生活において様々な制限がある中で交友関係を築かなければならなかったことなど、登校に対する意欲が湧きにくい状況にあったと考えられるとしております。新型コロナウイルス感染症による学校や家庭における生活や環境の大きな変化が、子供たちの不登校に何らかの影響を及ぼしたものと考えております。

### ○吉田 浩議員質問

この87件という数字が多いのかどうか、また、岡谷市として、不登校についての捉え方や対策等がありましたらお伺いいたします。

### ○教育部長答弁

件数については、コロナの状況で極端に増えたということはありません。少しずつ増えたり減ったりということになります。不登校については、1人1人原因も状況も全く違いますので、そういったことに対して、チームで1人1人丁寧に対応していくことが必要ではないかと考えております。

## ○吉田 浩議員質問

よく分かりました。最後に、在宅時の子供のストレスや悩みなどに関する心のケアについて、現在、学校で取り組まれていることがありましたらお伺いいたします。

## ○教育部長答弁

先ほど申しましたけれども、いろいろなストレスを抱えている子供たちがたくさんおります。そんな中で、元気に頑張っておりますが、そういった子供たち1人1人に、学校と教育委員会がしっかり丁寧に対応していくことが非常に大切であると考えております。

## ○吉田 浩議員

最後、駆け足になってしまいましたが、丁寧な御答弁ありがとうございました。引き続きの取組、よろしくお伺いいたします。これで私の一般質問を終わりにいたします。

## ○中島 保明議員

### 2 みどりの少年団について

#### (3) 全小中学校への拡大についての意欲

「あふれる緑と清らかな水につつまれたまち」、このフレーズは岡谷市環境基本計画において定められた望ましい環境像であります。そして、皆さん、文部省唱歌の「故郷」を思い出してください。文部省唱歌の「故郷」の歌い出しは「ウサギ追いしかの山、コブナ釣りしかの川」でございます。それが3番の最後の2行は「山は青きふるさと、水は清きふるさと」というように1番の歌詞と対句になって3番を締めいております。これは何を言っているかということ、この岡谷市の望ましい環境像にもつながっており、要するに、この「故郷」という歌は、岡谷市を応援する歌としてぴったりだということが言えようかと思えます。

さらに、この3番は、1番は望郷の歌、ふるさとを懐かしむ歌、2番は「つつがなしや友がき」、友達は元気にやっているだろうかという、友情を綴った歌だと思えます。そして、この3番は、ちょっと違いまして「志を果たしていつの日にか帰らん」、ふるさとへという歌で、大げさに言うと、地方創生といえますか、Uターンを勧めるというか、本当によくできた歌詞だと思えます。中野市出身の高野辰之さんという方の作詩でございます。芸術、音楽のつながりで紹介させていただきました。

環境基本計画の「あふれる緑と清らかな水につつまれたまち」を目指すためにも、小中学生への自然教育が必要かと思えます。みどりの少年団は、そのために重要な役割を担うことができるのではないかと思います。そこで、お聞きしていきたいと思えます。

(1) 学校や地域のみどりの少年団の結成状況です。みどりの少年団の結成数と活動について、状況を岡谷市、諏訪圏域、長野県等についてお聞きしたいと思います。⇒産業振興部長の答弁

次は、(2) みどりの少年団結成へのステップです。小中学校がみどりの少年団を組織するための手順をお聞きします。⇒産業振興部長の答弁

最後は、みどりの少年団について、全小中学校への拡大についての教育長先生のお考え、意欲をお聞きしたいと思います。

## ○教育長答弁

地球規模での環境問題や異常気象による災害が各地で発生している中、森林の持つ役割や自然の大切さ、自然と共存することなどを学ぶことは、災害への備えとなります。次代を担う子供たちが緑と触れ合う活動を通して、ふるさとやそこに住む人々を愛し、心豊かな人間に育っていくといったみどりの少年団の理念や活動の意義につきましては、私も全く同感であり、多くの子供たちに参加してほしいと願っております。

しかしながら、みどりの少年団に限らず、交通少年団、スポーツ少年団など、様々な団体に全ての学校が加入、参加していくということは非常に難しい状況にあります。少子化、子供の休日の過ごし方の多様化等がその要因となっております。今後は、みどりの少年団等の活動の様子を校長会で丁寧に紹介するなど、できる限りのPRに努めてまいりたいと考えております。

## ○中島 保明議員

事情はよく分かりました。なかなか難しいこともあり、結成に至らないということのようですが、いろいろな場面を捉えて、できる限り、みどりの少年団の紹介をしたいということ、それから学校にもいろいろなイベントがあつて、林業、農業等に教育の場を設けていただいているということがよく分かりました。

ぜひ要望として、今、大人になってもなかなか鎌やなたを使わない方がおられるという話を聞きます。そんなこともあつて、先ほどの「故郷」の歌にあるように、緑を育てて、きれいな水をつくっていくためには、林業の施業に慣れる機会をぜひ設けていただきたいと思えます。

湊の数年前の大規模な植林祭や川岸の火災の現場の植林作業でも、子供たちが実際に植林作業をしながら活躍していました。みどりの少年団に限らず、どんな組織にいても、何らかの形でそういう作業に携われるような場があつてほしいと思えますので、よろしく申し上げます。

## ○武井 友則議員

### 2 公共施設について

#### (3) 学校

学校などの施設については、岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プランのハード整備版で検討されておりますが、学校教育系施設については、令和元年度決算値で公共施設全体の31.8%を占めており、教育系施設をこれからどうしていくのかという議論なしに、岡谷市公共施設等総合管理計画の目標である2055年までに公共施設の延べ床面積20%以上削減は難しいと思えます。

岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プラン（ハード整備版）の前期5カ年では、現在の小学校7校、中学校4校の施設規模、配置を維持することとされておりますが、前期5カ年も折り返し地点に来ており、今後の計画が気になるところであります。

まずは、現状の確認として、施設の老朽化の進行具合と改修状況、また、更新予定についてお聞きいたします。

## ○教育長答弁

市内の小中学校には、昭和40年代から昭和50年代に建設された建物が多く、管理棟数69棟のうち、約8割が建築後30年を経過しております。長期間の使用によりまして、屋根や外壁の劣化、また、床や建

具のガタつきや雨漏り等の頻度が増加するなどの老朽化が進み、いずれは抜本的な改修が必要となってきました。こうした状況を踏まえ、平成30年度に本市の学校施設等長寿命化改修計画として岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プランのハード整備版を策定し、計画に基づく学校施設整備を進めています。本年度竣工いたしました岡谷東部中学校管理教室棟の長寿命化大規模改修工事が、本計画に基づく最初の大規模施設整備となりました。

今後の予定であります。現在、新年度の予算編成中のため、詳細を申し上げられることはできませんが、建物の老朽度などを総合的に勘案して、引き続き長寿命化を図る学校施設の整備を推進していきたいと考えております。

#### ○武井 友則議員 2回目以降

更新予定、現状については理解いたしました。引き続き長寿命化を図っていくということでした。

魅力と活力ある学校づくり推進プランのハード整備版の計画期間、前期5年間においては、現在の小学校7校、中学校4校の施設規模、配置を維持するということになっています。先ほど更新予定について、引き続き長寿命化を図っていくと答弁されておりましたが、後期5年間についてどのような考えで進めていくのか、お聞かせください。

#### ○教育部長答弁

現行の前期5カ年の計画は、令和5年度までの計画としております。後期計画は令和5年度に策定していく予定であります。基本方針につきましては、そのまま継承していく考えでございます。そのほか、少子化の進行による将来の学校運営への影響を踏まえ、学校規模や適正配置の在り方などの視点も考慮しながら策定を進めてまいりたいと考えております。

#### ○武井 友則議員質問

分かりました。後期計画については令和5年度に策定するということですが、基本的な考え方は同様で、計画に書いてあるように、施設規模や配置はまた検討していくということでした。

基本的な考えは同様ということで、施設規模は維持していくと思うのですが、施設規模について、縮小に向けた減築などは今のところ考えていないと受け取ってよろしいのか、確認させてください。

#### ○教育部長答弁

そうしたことも総合的に考えながら、これから計画を策定していく段階でございますので、いろいろな可能性をしっかりと考えていきたいと思っております。

#### ○武井 友則議員質問

先のことでありますが、今からしっかりと検討をしていただきたいと思います。

魅力と活力ある学校づくり推進プランの中では、プールなども含めた集約化や施設の複合化ということが書いてありますが、このことについても、今後考えていくということでしょうか。

#### ○教育部長答弁

学校プールにつきましては、岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プランのハード整備版において、大規模な改修が必要になった場合を想定して、市民プールの活用やプールの統合などの共同利用等の在り方を研究、検討をするようになっておまして、引き続き内部での研究を深めていきたいと考えております。

学校施設の複合化や集約化に関しましては、前期計画期間中は現在の施設規模や配置を維持していく

こととしておりますが、後期計画の策定に向け、いろいろな可能性を探っていきたいと考えております。

#### ○武井 友則議員

分かりました。最初に言いましたが、学校施設は公共施設の中でも面積が広いということで、どんどん考えを深めて進めていかないといけないと思っておりますので、ぜひ早め早めに検討を進めていただければと思います。

昨年までの総務委員会が中心になって調査・研究して提出しました政策提言についても、ぜひ見ていただいて、検討材料にさせていただきたいと思います。広報おかや11月号の（岡谷市公共施設等総合管理計画に関する）漫画の最後のせりふは「ともに岡谷の未来を考えようじゃないか！！」です。ぜひ、岡谷市民みんなで岡谷市の未来について考えていければいいなと思います。

#### ○大塚 秀樹議員

##### 2 コロナ禍による小中学生の心のケアについて

###### (1) 不登校の状況

文部科学省の調査で、昨年度30日以上登校せず、不登校とみなされた小中学生は前年度より8.2%増えて19万6,127人となり、過去最多だったことが報道されました。コロナ禍の影響もあるでしょうが、心身に不調を来した子供の多さに驚くところであります。

そこで、岡谷市における小中学生の不登校の状況についてお聞きいたします。

昨年度の不登校の児童生徒数は、決算審査において暫定の人数を承知しておりますが、その後の確定した人数と、今年度これまでの状況についてお伺いいたします。

#### ○教育長答弁

令和2年度における岡谷市の不登校の児童生徒数は、小学校で35名、中学校で52名、全体で87名でありました。令和元年度と比較して10名の増となっております。

過日、国・県の不登校の児童生徒の状況が公表されておりますが、ともに前年度より増加しており、過去最多となっております。

文部科学省では、増加の背景について、生活環境の変化により生活リズムが乱れやすい状況や、学校生活上の様々な制限がある中で交友関係を築かなければならなかったことなど、登校する意欲が湧きにくい状況にあったこと等が考えられるとしております。

今年度の岡谷市の状況につきましては、10月末現在の暫定数値ではありますが、病気や経済的な理由以外で継続または断続して30日以上欠席している児童生徒数は、小学校で14名、中学校で37名、全体で51名、前年度同期とほぼ同水準となっております。

#### ○大塚 秀樹議員 2回目以降

岡谷市の不登校の児童生徒数は、昨年度は87名で、その前の年度と比較して10名の増、また、本年度も昨年度と同じような状況であるとのことでした。

壇上でも触れましたが、不登校の背景には、子供たちの日常の喪失、さらに在宅時間が増えた親との確執も影響しているとの指摘もあります。

市において様々な取組をされていると思っておりますが、在籍する児童生徒数は減少傾向にあるのに不登校の児童生徒数は増加していることは心配な状況が続いている印象を持ちますし、長期化するコロ

ナ禍による子供の教育を取り巻く環境への影響の大きさが浮き彫りになったとの思いであります。

もう一つ、不登校に関しての国の調査として、今年度実施された全国学力調査と同時に実施されたアンケート調査で、学校に行くのは楽しいと思うかという質問に、あてはまると答えたのは小学校6年生で48%、中学校3年生で43.4%となり、小学校6年生では初めて5割を切ったとのことでもあります。

小学校6年生と中学校3年生のうち、学校に行くことが楽しいと思っている児童生徒は全体の半分以下であるとの結果であります。確かに進学に向けて勉強も追い込みの学年でありますから、学校生活は楽しいことばかりではないことは分かりつつも、こちらも驚きの数字であります。

そこで、岡谷市で行った同じアンケート調査の調査結果は公表されているのでしょうか。もし公表されているのであれば、その数値と調査結果の分析状況をお伺いいたします。

### ○教育長答弁

市の数値については公表しておりませんが、おおむね全国平均と同様の結果でありました。調査の分析は友達と思い切って遊べることができない、あるいは大きな声で話せず、特に給食の黙食が続いているといったことが大きな要因ではないかと考えております。

また、小学校6年生や中学校3年生は学校の最上級生として全校を引っ張っていく立場でもありますが、児童会や生徒会活動も思うようにできないといったこともストレスとしてつながっているのではないかと推測しております。

### ○大塚 秀樹議員

公表はしてないが、全国平均と同じぐらいの数値であるとのことでした。全国平均より相当少ない数字との答弁を期待しておりましたが、こちらも心配な結果が示されています。当然、この心配な状況は、教育をはじめ、担当している皆さんは共有されていると聞いていますので、今後も分析を重ねていただき、最善の取組をしていただきますようお願いいたします。

コロナ禍により大人も大きなストレスを感じている時代であります。子供たちも相当我慢を重ねているのではないかと考えてなりません。

## (2) 学校行事の中止

国では、小中学生の不登校の背景には、コロナ禍による一斉休校などによる生活のリズムの乱れ、また、運動会、音楽会などの学校行事の中止や延期、さらに部活の制限などによって身近な目標に向けて頑張る機会が減ったことにより、登校意欲が低下したことがあると指摘しています。

学校は、勉強はもちろんのこと、様々な行事を通して人間と関わる協調性や人間関係の調整能力を養うこともできる場所であって、子供たちに貴重な体験の機会を与えてくれる場所であると考えております。そこで、コロナ禍により中止となった学校行事があったのでしょうか。もしあれば、主な行事をお教え願います。

### ○教育長答弁

学校行事は大切な教育活動の一環であり、コロナ禍であっても、安全に配慮した上で可能な限り実施する考えであります。

この内、校内で実施する運動会や音楽会などの行事につきましては時間短縮やプログラムの見直し、あるいは保護者の参観の入替えや別室でのリモート参観等、各校で工夫し、実施していただいています。

登山や遠足、長野旅行や修学旅行などの主要な校外行事につきましては、感染状況を見ながら、行き先を変更し、宿泊から日帰りに切り替えるなどして対応しております。

そのほか、県内の感染レベルが高い間の社会見学などでは、不特定多数との接触する可能性のある場所への訪問を見合わせた事例もございます。

このように各校では、毎年行っている主要な学校行事を根本から見直すよい機会と捉え、職員一丸となって行事の目標あるいは内容等の検討を深め、工夫を凝らして児童生徒の大切な思い出や経験となるよう取り組んでいるところでございます。

#### ○大塚 秀樹議員 2回目以降

運動会や音楽会など様々な行事において、工夫を凝らしながらも実施されていることが分かりました。さらにこの困難を、行事を見直すよい機会と捉えているとの前向きな発想をお持ちいただいていることも分かりました。誠に頼もしい限りであります。

入学式や卒業式での挨拶や大勢の来賓が子供のためになっているのか、そんなところまで発想を広げてよいのではないかと思います。その発想の一つに加えていただくか、または参考になればと思う活動があります。それは、学校行事に子供たちが主体的に参加しているときには、子供たちに強い意欲が生まれ、学校全体に活力が出てくるとの大学教授の指摘であります。

そこで、現在、学校で子供に立案・企画などを任せて実施した行事や活動はあるのでしょうか、お聞きいたします。

#### ○教育長答弁

今、議員さんが御指摘いただいたことは大変重要なことかなというように思います。やはり子供が主体的に学校行事やいろいろな活動に参加する、関わるということは大変意義があると思っています。

岡谷市内の学校では、子供たちが主人公あるいは主役となる学校行事あるいは活動を目指して、今頑張っているところでございます。

例えば、修学旅行に関しては、全ての学校で行き先を県外から県内に替えて実施しておりますが、ある中学校ではクラスごとに生徒自身が行きたい地域や見学場所を自分たちで考え決める、そして、身近な地域であっても新たな気持ちを大事にしながら事前学習を行い、旅行に臨んでいるというようにお話を聞いております。

また、最近子供たちが選択できるような体験型学習というようなことも旅行の中に多く取り入れております。

さらに、児童会やあるいは生徒会活動でも密を避けるといった観点から、例年どおりの活動が行えないこともあって子供たちは本当に苦勞しているわけですが、例えば、図書委員会の子供たちが読み聞かせをやって、それを昼の放送の時間に流すといった取組もしているようであります。

それぞれの学校で子供たち自身が今、自分たちができることを考えながら一生懸命頑張っているというのをお聞きしているところであります。

#### ○大塚 秀樹議員質問

思ったよりも少ないように思いますが、取組はされているようであります。先ほど行事を見直すよい機会と捉えているとの答弁がありましたが、いかがでしょう、その行事の見直しの場に子供たちも加わって、見直しを大人と子供と一緒に考えて、子供たちが主体で行事を行えるよ

うな機会を与えてあげることができないでしょうか。各地区やカルチャーセンターにおいては、子供が主体で取り組む行事があることは承知しておりますが、学校生活の中においても取り組むことで、子供たちのやる気を引き出し、心のケアにもつながっていくのではないかと考えております。ぜひとも研究・検討をお願いいたします。

子供たちは失敗することも大切なことだと私は思っております。子供たちの心のケアについて、国立成育医療研究センターの医師は、子供は大人と違い、この時期にしかできないことが多く、それが失われ続けていて、親や教師など身近な大人がふだん以上にコミュニケーションを密にすることが重要だと述べております。

家庭や学校での子供への寄り添いがこれまで以上に求められる時代ではありますが、最後に、学校ではこれからコロナ禍による小中学生の心のケアにどのような方針で取り組もうとしているのか、考えをお伺いいたします。

### ○教育長答弁

これも大変重要なことだと思っておりますが、コロナ禍での影響により、行事や活動に様々な制約がある中で、子供たちを取り巻く環境は大きく変化をして、子供たちの心身への影響が懸念されるところでございます。

そのため、各学校では先生方が一丸となって、子供たち1人1人の心に温かく寄り添いながら、小さなサインも見逃さないよう、日々アンテナを高くして見守っていただいているところであります。

休み時間には多くの先生方が子供の輪に入って一緒に遊んでいるといった小学校もございます。このほかにも、各学校では、子供との何気ない会話やしぐさ、あるいは日記等を丁寧にみるといった日々の営みから子供たちを見守る取組を続けていただいております。

また、岡谷市では全ての子供に学校生活の満足感や意欲、あるいは適応感などを把握するためのQU検査を小学校1・2年生中心にやっております。それからアセス検査は小学校3年生から中学生までを対象にやっているわけですが、これを年2回実施して、客観的に子供の心の状況を捉えることが大事だと考えております。

その分析結果やSOSの出し方に関する授業後のアンケート調査等を基に、できる限り子供たちと面談をする機会を持つなど、きめ細やかな対応を行っていただいております。

さらに、子供たちの元気のなさや、あるいは心の落ち込みなどの異変に気づくためには、複数の先生方の目で見ることが大切であり、小学校高学年においては教科担任制を導入するなど、学級担任だけではなく多くの先生方が1人1人の子供の指導に関わることができる体制づくりを進めるとともに、悩みや困り感を抱えている子供がいれば、その状況に応じてスクールカウンセラーあるいは心の相談員、またSSW（スクールソーシャルワーカー）といった専門家につなぐなど、引き続きチーム体制で丁寧に子供たちの心のケアに努めていきたいと思っております。

### ○大塚 秀樹議員

ありがとうございました。

大勢の大人が見守っていることが分かれば、子供たちも心を開いて安心して学校に通えることと思います。

コロナ禍での不安定な情勢はまだまだ続くと思っておりますが、どうか万全な体制で子供たちを見守り、寄

り添って、子供の肯定感を大事にし、子供たちを見守っていただきますようお願いいたします。

また、学校の先生方への心のフォローも忘れずに行っていただくことも要望しまして、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。